

静岡県立大学広報誌

# はばたき



No.123

2013. June

## News&Topics

- 新年度スタート！平成25年度入学式を開催
- 米国ロジャーウィリアムズ大学と交流協定を提結

### 連載 活躍する卒業生

●薬学部・大学院薬学研究科

### 産学民官連携

●「こんにゃく入りの豆乳ドーナツ」を共同開発



### 平成24年度学位記授与式を挙りました

3月20日、平成24年度学位記授与式を、静岡市のグランシップで挙りました。学部卒業生540名、短期大学部卒業生214名、大学院修士課程修了者124名、大学院博士課程修了者11名の合計889名が晴れの門出を迎えました。

木苗学長は各学部や研究科の代表者に学位記を授与し、式辞で本学の校旗に描かれた若鳥について触れ、「目標を持ち、失敗を恐れず挑戦し、感謝することを大切に、若鳥のように大空にはばたいてローカル且つグローバルに活躍されることを祈願します」と述べました。

本庶理事長は、「諸君らは社会において知識人と呼ばれる人材となり社会のリーダーとなることが期待されている。これまでの学生生活で蓄えた知識だけではなく、その知識をどう活用するかという知恵を持って社会へ挑んで欲しい」とエールを贈りました。

在学生代表の谷美生夏さん(食品栄養科学部3年)は、送辞で「励まし、優しく指導してくださった先輩方に感謝し、いただいた言葉や経験を胸に精進していきます」と述べました。

卒業生代表の壁谷薫さん(食品栄養科学部)が答辞で、友人をはじめ、両親や教職員など周囲の支えに感謝の意を述べ、「大学生活を通じて学んだことを生かし、これから出会うすべてのことを糧として、自分の道を切り開いていきたい」と述べました。

学位記授与式終了後は、各キャンパスで伝達式が執り行われ、会場の外では、後輩達が、先輩達を胴上げしたり、花束を贈るなど卒業生の門出を祝う光景が見られました。



卒業の記念に家族や友人と撮影する姿が見られました



答辞の言葉を述べる壁谷さん



サークルの後輩に囲まれ笑顔の卒業生

### 平成25年度入学式を挙りました

平成25年度入学式を、4月5日に、静岡市のグランシップにて挙り、暖かな春の陽射しの中、学部543名、短期大学部275名、大学院133名の合計951名が本学学生としての第一歩を踏み出しました。

木苗学長は式辞で、大学生活について「高校までの受身の学びとは異なり、自らの責任で学びたいことを選び、自分の進むべき道を考える、人生にとって極めて大切な時期」と述べ、「大きな夢と希望をもって何事にも果敢にチャレンジし、実り多い学生生活となることを期待します」と新入生を激励しました。本庶理事長は挨拶で、「総合大学として持つ文理の幅広い分野の教員、学生、外国人留学生との交流を通し、広い視野で物事を捉える国際人に育てて欲しい」と述べました。

新入生を代表して誓いのことばを述べた経営情報学部の土肥潤也さんは、「大学で多くのことを学び、将来は情報技術を用いて地域社会を活性化し、地元静岡に貢献したい」と抱負を語り、本学学生としての自覚と高い志を持ち勉学に励むことを誓いました。

式典終了後には、新入生を対象に学長1時間目の授業が行われ、木苗学長が本学の授業や行事、設備環境等について紹介し、学生生活を楽しく充実したものにする方法について講義しました。続くクラブ・サークル紹介では、アカペラサークルとジャズダンス部が見事なパフォーマンスで新入生の入学を歓迎しました。



誓いの言葉を述べる土肥さんと新入生



学長1時間目の講義で新入生に語りかける木苗学長 美しいハーモニーで観客を魅了するThe Vivaledge

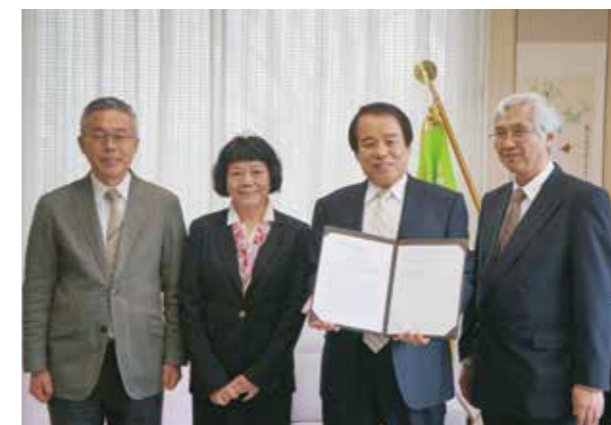
### 米国ロジャーウィリアムズ大学と大学間交流協定を締結

4月1日、本学は米国のロジャーウィリアムズ大学と大学間交流協定を締結しました。本学が交流協定を締結した大学は、同大学で20校目となります。

昨年5月に、静岡県とロードアイランド州の交流の一貫で、ロジャーウィリアムズ大学理事でもある同州の日米協会会長が本学を訪問されたのをきっかけに、視察と意見交換会を重ねてこの度の協定に至りました。協定の内容としては、夏季の短期英語研修や教員交流、セメスター留学となっています。本学では今回の締結を機に、学生・教員の学術交流を促進していきます。

#### >> ロジャーウィリアムズ大学概要

米国ロードアイランド州プリストルに所在し、人類学・舞台芸術学部、芸術学部、歴史学部、文学部、教育学部、ビジネス学部、工学部、法学部、国際関係学部、建築学部等の学部専攻に約5,300人の学生が在籍しています。基本理念「Learning to Bridge the World:(世界の架け橋となるために学べ)」に示されるように国際交流が盛んであり、近年はアジア研究にも力を入れています。



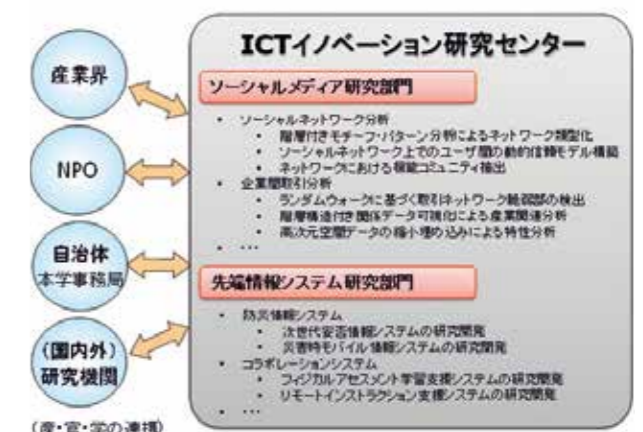
協定締結は両大学長が協定書に署名し郵送で行われました(写真は本学での署名の様子)

### 経営情報イノベーション研究科 ICTイノベーション研究センターを開設

本学の経営情報イノベーション研究科では、4月1日、大学院の附置センターとして「ICTイノベーション研究センター」を開設しました。

同センターは、社会の様々な分野における「イノベーション」の基盤となる情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)に関する研究を行い、日本国内外の情報関係学の発展と、静岡県をはじめとした地域の発展に貢献することを目的としています。

例えば、Facebookやmixi等に代表されるSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)や、ブログを通じた情報伝播の法則性を分析することで、災害時における情報発信や、コンピュータウイルスの拡散抑止などへの応用が期待できます。また、防災情報システムや遠隔会議システムなどの先端的情報システムの研究は、市民生活や企業活動を支えるといった地域貢献につながります。センターではこういった社会的課題に対し、ソーシャルメディア研究部門と先端情報システム部門に分かれ、センター長である齊藤和巳教授(知能情報学)をはじめ、情報分野を専門とする教員10人が研究を推進します。



ランダムウォーク(注1) フィジカルアセスメント(注2)

(注1) ランダムウォーク:

次に現れる位置が確率的に無作為(ランダム)に決定される運動

(注2) フィジカルアセスメント:

問診・視診・触診・打診・聴診技術により患者の身体を査定し、状態を把握すること



## 平成25年度開学記念行事を行いました



今年で22回目となる開学記念行事が、4月24日に開催されました。学生や教職員が運動会、グループディスカッションや親睦会などを通じて交流を深め、大学のさらなる発展に向けて決意を新たにしました。

第1部の「運動会」は、生憎の雨のため体育館での開催になりました。赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、優勝を目指して激しい得点争いが繰り広げられました。学生は溢れるエネルギーをぶつけ、参加した教職員は日頃の運動不足をものともせず、体育館を走り回り、スポーツを通じて大いに交流を深めました。今年は、青チームが優勝に輝きました。



グループディスカッション 華道部による生け花の講義と実技体験

第2部は学生ホールに会場を移し、「広げよう 県大の和」と題して、参加者の学生と教職員が「女性の社会進出と出産・子育てを考えよう」「チーム医療について考える」「大学生の食生活の問題点って何?」「県立大学と草薙のまちづくり(大学とまちづくり)」「病気や障がいをもつ人を支えるボランティア活動」「県大ってどんなところ?」という6つのテーマに別れ、約1時間の活発な議論をし、その後、各グループが発表をしました。

各グループとも、模造紙に意見を整理したうえ、1グ

ープ10分程度で発表し、拍手を受けていました。また、ディスカッションと並行して、本学留学生を対象とした生け花の実技体験も開催されました。最後に、学長から学生の熱意を評価するお言葉をいただき、熱心な討論の幕を下ろしました。



おおとり会賞の表彰 チアダンス部によるパフォーマンス

第3部の「はばたきのつどい」は、多数の教職員と学生が参加しました。学長の挨拶に引き続き、「おおとり会賞」の表彰が行われました。今年は、永年にわたり多文化共生キャンプを企画・運営した「リトルワールドキャンプ実行委員会」が受賞しました。また、第1部の運動会の表彰やジャズダンス部とチアリーダー(GOLD ROWDIES)のアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。

全体をとおして学生と教職員合わせて600名近くが参加し、盛会のうちに開学記念行事を終えました。

### 参加者数

区分	学生	教職員	計
第1部 運動会	81	13	94
第2部 広げよう 県大の和	64	19	83
第3部 はばたきのつどい	139	266	405
計	284	298	582

\*第3部の参加者数は、参加券の販売枚数等による

## 就職内定率 昨年に続き好調 98.7%を達成

平成25年3月卒業(修了)者の就職状況は、依然として厳しい雇用情勢が続く中、学生達が内定獲得まであきらめずに粘り強く就職活動を行った結果、学部生の就職内定率は98.4%で、全国の平均(93.9%)や県内大学の平均(90.8%)を大きく上回りました。

大学院修了者の就職内定率は、100%で、大学全体の就職内定率は前年度と同様の98.7%でした。

統計：キャリア支援センター

### ●平成25年3月卒業(修了)者の就職状況

(平成25年3月31日現在)

	就職内定率	(前年度)
薬学部	100%	100%
食品栄養科学部	100%	96.9%
国際関係学部	95.5%	98.0%
経営情報学部	100%	98.0%
看護学部	100%	100%
学部計	98.4%	98.6%
大学院	100%	99.1%
合計	98.7%	98.7%

### ●平成25年3月卒業(修了)者の主な就職先

(平成25年3月31日現在)

薬学部 薬学研究科	アステラス製薬、エーザイ、小野薬品工業、興和、大正製薬、田辺三菱製薬、大日本住友製薬、ツムラ、持田製薬、横浜市立大学附属病院、静岡県
食品栄養科学部 生活健康科学研究科	シャンソン化粧品、ダイショー、日研フード、はごろもフーズ、フジパングループ本社、ブルボン、丸大食品、三井製糖、米久、磐田市立総合病院

国際関係学部 国際関係学研究科	サンリオ、東洋紡、矢崎総業、静岡ガス、鈴与、日本通運、東海旅客鉄道、静岡銀行、富士屋ホテル、ローソン、静岡市、静岡県教員
経営情報学部 経営情報学研究科	スター精密、トヨタ車体、浜松ホニクス、静岡鉄道、静岡銀行、静岡県労働金庫、静岡コンピューターサービス、ミクシィ、ヤフー、静岡県
看護学部 看護学研究科	静岡県立こども病院、静岡県立総合病院、静岡県立静岡がんセンター、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院、東京大学医学部附属病院、名古屋市

キャリア支援センターでは、企業の採用活動の進行に合わせ、年間35種類以上のキャリア形成・就職支援講座や学内企業説明会を開催するとともに、求人開拓員による企業訪問や専門のアドバイザーによる個別相談を実施するなど、きめ細かな支援を行っています。

## トムソン・ロイター論文引用度指数で連覇

朝日新聞出版が刊行する「大学ランキング2014年版(週刊朝日進学MOOK)」に、本学がトムソン・ロイター論文引用度指数(2007年-2011年)の農学分野で1位、生態・環境学分野で2位にランクされていることが掲載されました。

トムソン・ロイターは、世界最大級の学術情報文献のデータベースを構築・提供する機関で、論文引用度指数は、各大学・研究機関の研究が注目を集めているかどうかを知る目安となる指数です。農学分野は昨年に続き1位連覇、生態・環境学分野は今年の3位からランクアップとなり、あらためて本学の研究が、世界的に高い水準にあることが示されました。



## 患者支援チャリティイベント 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」を 本学で開催

本学が共催するがん患者支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 静岡」（大会委員長：木苗直秀学長、実行委員長：環境科学研究所 若林敬二教授）が4月20日から21日にわたり、本学グラウンドにて行われました。

リレー・フォー・ライフは、参加者が24時間リレーしながら歩き続けることで、がん患者やがん経験者、その家族を支援するとともに、がんを負けない社会と絆を築くための啓発イベントとして世界21カ国で開催されています。県中部では初となった今回は、4月としては厳しい寒さの中、地元静岡市はもとより遠く九州・四国・信州などからも駆けつけた多くの参加者が、笑顔で本学のグラウンドを歩き、お互いを気遣いながら想いを繋げました。

また大会当日はリレーウォークのほか、バンド演奏、地元企業やNPO団体によるブース出展などが催され、本学の学生、教職員が大会運営に携わるとともに、シンフォニックウィンズやダンスサークルなどの学生団体がパフォーマンスを行い、イベントを盛り上げました。

大会1日目の夕方から生憎の天候となり、グラウンドでのリレーウォークは中断となりましたが、会場を大学内の学生ホールに移し、クイズやスライドショーが行われました。予定を早め翌朝に閉会式が執り行われました。大会を通して38チームが参加し、155人のサバイバー（がん患者）を含め総勢1200人が集いました。

患者、家族、県大学生・職員、医療従事者、一般の方すべての参加者が「共に歩く」という目的のもと、歩き、語り合いながら楽しく充実した時間を共有しました。



## 学生2団体が キリン・子育て公募事業の助成を獲得

本学公認サークルの「静岡学習支援ネットワーク」と「リトルワールドキャンプ実行委員会」が、公益財団法人キリン福祉財団の平成25年度キリン・子育て公募事業助成に選ばれました。本公募事業は、地域での社会福祉活動を支援するために同財団が毎年行っているもので、今年度は、「地域における子育てに関わるボランティア活動」をテーマに公募が行われました。

静岡学習支援ネットワークは、家庭の事情や不登校などさまざまな理由で学習困難な子どもを支援するために、2012年2月に発足した団体です。現在は地域の交流館等で中学生を対象とした学習教室を開講しています。今回は、「勉強したくてもできない子どもたちに対する学習支援事業」が助成に選ばれました。

リトルワールドキャンプ実行委員会は、さまざまな文化をもつ人々が、共に生きることができる静岡県をつくるために、「多文化共生キャンプ Little World Camp」を企画・運営しています。静岡県在住の外国人・日本人小学生の交流を目的としたこのキャンプを通じて、子どもたちが自分たちの文化とは異なる文化と関わることを意識し、理解を深めるきっかけを提供しています。両団体は5月8日に行われた贈呈式に出席し、助成金を受け取りました。

>> 静岡学習支援ネットワーク ホームページ

<http://shizuoka-study-support.jimdo.com/>

>> リトルワールドキャンプ実行委員会 ブログ

<http://ameblo.jp/littleworldcamp9/>

## 食品生命科学科が JABEE 認定を取得

食品栄養科学部食品生命科学科の教育プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定基準に適合したプログラムとして認定されました。食品に特化した技術者養成プログラムとしては日本初の認定です。

2012年度修了生（2013年3月卒業）から JABEE 認定プログラムの修了生となり、国家試験である技術士資格試験の第一次試験免除の優遇措置が与えられるとともに、国際的水準の質の高い技術者教育を受けたことが客観的に証明され、卒業後の活躍の場が広がるのが期待されます。

日本技術者教育認定制度（JABEE）とは、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、国際的な水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する制度です。

## 教員等著書紹介



### ゲノムが語る生命像

現代人のための最新・生命科学入門

著者: 本庶 佑  
(静岡県公立大学法人理事長 <分子免疫学>)

講談社 / 2013年1月18日発刊  
定価(税別): 940円  
ISBN: 978-4062578004

本書は生命科学の基礎についての解説書として、『遺伝子が語る生命像』というタイトルで1986年に出版され、24刷まで版を重ねた。初版から約30年を経た現代、ゲノム工学技術はめざましい発展を遂げている。今回の改訂新版は、最前線の研究を踏まえ生命科学の変革と将来について、新たに考察している。



### ヨーロッパの地域言語〈スコット語〉の辞書編纂 『古スコット語辞典』の歴史と思想

著者: 米山 優子  
(国際関係学部講師 <イギリス文化・文学、社会言語学>)

ひつじ書房 / 2013年2月14日発刊  
定価(税別): 8,800円  
ISBN: 978-4-89476-634-1

ヨーロッパの地域言語であるスコット語は古英語と共通の素地をもち、中世のスコットランド王国ではナショナル・ランゲージとして幅広く用いられた。現在は、欧州地域言語・少数言語憲章で保護の対象となっている。12世紀から1700年までの文献に現れたスコット語を収録する『古スコット語辞典』(1931-2002)は、スコット語辞書史における一つの到達点と言える。本書は、辞書編纂者の思想と完成までの経緯をつぶさに検証し、その意義を明らかにしている。



### 熟議民主主義ハンドブック

著者: 津富 宏  
(国際関係学部教授 <犯罪学、刑事政策、評価研究、青少年支援>)

\*ジョン・ギャステイル、ピーター・レヴィーン 編 津富宏、井上弘貴、木村正人 監訳

現代人文社 / 2013年5月7日発刊  
定価(税別): 3,800円  
ISBN: 4-87798-543-1 C3031

近年、日本全国各地で熟議民主主義の実践が始まったが、その具体的な方法の蓄積と検証はこれからの課題である。本書では、直接民主主義の豊かなアメリカ合衆国を中心に、政治過程における市民参加の手法について、具体的事例を紹介しながら解説する。市民陪審、討議型世論調査、タウンミーティングなど多様な事例について、その長所と短所の双方をまとめ、自治体、教育機関などこれから実践しようとするあらゆる人々に有用な一冊となっている。



# 学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



## ジャグリングサークルが 全日本ディアボロ競技会で入賞!

ジャグリングサークル五臓六腑が3月に都内で行われた「2013全日本ディアボロ競技会」に参加し、所属する薬学部3年の高橋さんが、女子1ディアボロ部門で第2位に入る優秀な成績を収めました。

ジャグリングサークル 五臓六腑 副代表  
高橋 美玲 (薬学部3年)

今回思い切って大会に出てみて、本当に良かったと思っています。入賞したことは本当に嬉しいことですし、他の大学のジャグリングサークルの方々と交流できたこと、上手い人の演技を沢山見られたことは、とても刺激になりました。

ただ、私は自分の演技に全く満足していません。今回の結果に甘んじることなく、今後は、技数を増やすこと、一つ一つの技を安定させること、技の魅せ方などを意識して練習していきたいと思っています。また、積極的に他の大学のジャグリング

サークルとも交流していきたいと思っています。

現在ジャグリングサークル五臓六腑には40人近く部員がいます。そのほとんどが大学に入ってからジャグリングを始めました。大学内外問わず、様々なところでのパフォーマンス依頼も受けています。少しでもジャグリングに興味のある方は、是非一度見学に来てください。きっと新しい世界が見えてくるはずです。



## 陸上サークル 公式戦初出場にして入賞の快挙!

4月に静岡県草薙総合運動場で行われた県中部陸上選手権兼県選手中部地区予選に、陸上サークルが出場し、創部初の公式戦において好成績を収めました。

陸上サークル代表  
深澤斗希也 (食品栄養科学部2年)

陸上サークルは昨年2012年に創設され、今回は初めて静岡県立大学として公式戦に出場することでその第一歩を踏み出しました。今回はまだ試合に向けた練習が不十分であるという人が多く、少人数ですが、3人で計4種目に参加しました。

当日は悪天候の中、選手以外の部員もたくさん応援に来てくれて、自己ベストを出すなど、充実した大会になりました。また、初の県立大学のユニフォームを着ての大会参加となったため、陸上協会の方や地元の高校生に「県立大に陸上部ができたのか?」と注目していただき、嬉しく感じました。

陸上サークルの活動は、自分達でグラウンドに300mトラックを作るところから始まり、現在はグラウンドの草刈りや練習器具集めなど、陸上の練習がしっかりできる環境を作っていくと部員が協力し合っています。

活動には短大の学生も参加したり、競技場では静岡大学と共に練習をしたりと活動は少しずつ広がりを見せています。陸上を続けたい在校生や、これから入学してくる後輩たちのためにも、陸上サークルは元気に活動していき、いつか県大に立派な陸上部をつくるのが今後の目標です。

### 結果

男子400m 深澤斗希也 4位  
男子400mハードル 深澤斗希也 4位  
男子3000m障害 大野真澄 7位  
以上県大会出場決定 \*16位以内で県大会出場

県大会は7/14, 15に草薙競技場で行われます。

## ダンスサークル“ジェネシス” チャリティダンスイベント2013を主催

本学公認サークルのGenesis(ジェネシス)が、県内大学のダンス部・ダンスサークルと合同で、今年で3回目となるチャリティダンスイベントを開催しました。

ダンスサークルGenesis所属  
小長井 なつき(経営情報学部3年)

4月29日に本学の大講堂で開催されたチャリティダンスイベントは、今年で3回目ということもあり、例年より多くの来場者で賑わいました。他大学のゲストによる様々なジャンルのダンスを見ることができ、観客としても出演者としても楽しむことのできるイベントになったと思います。今回のイベントのチケット販売による収益は、160,160円となり、過去2回と比較して最も多くの支援金を集めることが出来ました。このうち10万円をフィリピンの子供たちの就学支援に、残りを東日本大震災の復興支援への寄付とすることになりました。たくさんの方に支えられて、このチャリティダンスイベントを開催することが出来たことに深く感謝するとともに、こんなに素敵なイベントをGenesis主催というかたちでできたことを心から

誇りに思います。また来年、再来年と長くこのイベントを続けていくことが出来たらいいと思います。たくさんのご支援、本当にありがとうございました。



## 県大生のみなさんへ

# 学生の活動の情報発信を 広報誌がお手伝いします。

広報誌「はばたき」では、学生の活動を紹介するコーナー「学生の日々」への投稿を募集しています。サークルのイベント報告や告知、ボランティア体験談など、なんでもOKです。情報を掲載したい方は、広報室までお気軽にお問い合わせください。

広報室

E-mail:koho@u-shizuoka-ken.ac.jp

TEL:054-264-5130



●名前 望月 あやこ  
 ●留学先 ブレーメン経済工科大学  
 ●所属 国際関係学部 国際言語文化学科4年  
 ●留学期間 2012年4月～2013年3月

ドイツ語の授業を履修していて、ドイツ語をもっと話せるようになりたいと思っていました。また、私はこれまで海外に行ったことも、一人暮らしをしたこともなく、ドイツでの経験は自分を成長させてくれると思い、留学を決意しました。

◆留学中に受けた授業

ドイツ語のクラスでは、会話、聞き取り、筆記がバランスよく行われていました。会話の練習を通して、文法の間違いを恐れずに話すことができるようになったと思います。また、私は日本の社会と経済についての授業も受け、期末にレポートを提出したり、プレゼンテーションを行ったりしました。とても難しかったのですが、友人の助けも借り、単位を取得することができました。授業がすべてドイツ語で行われるので聞き取る練習にもなり、語彙を増やすこともできました。



市庁舎前で撮った一枚  
街並みや建造物に歴史を感じます



留学先で出会った友人たちと  
遊びに行った時の写真

◆留学中楽しかったこと、苦労したこと

クリスマスにドイツの家庭に招待していただきました。家族の方が私にもプレゼントを用意してくださってとてもうれしかったです。苦労したことはやはり言葉です。友人との会話にあまり困らなくなり、ドイツ語に少し自信がついてきた頃、同じ建物に住んでいるおばあさんが私に何か話しかけてくることがありました。そのおばあさんはしゃべるのがとても速く、何度聞き返してもほとんど理解できませんでした。友人や先生は聞き取りやすいようにはっきり話してくれているのだと気づき、まだまだ勉強が必要だと感じました。

◆経験を通して身についた自信

現地で飛行機の子ケットを変更したり、ビザを取ったり、住民登録をしたりすることなど初めての経験ばかりでしたが、問題なく済ませることができました。これらの経験から、自分には難しそうに思えることでもなんとか乗り越えられるという自信ができました。もし留学を迷っている方がいたら、貴重な体験がたくさんできるので、ぜひ行ってみたいと思います。



クリスマスの時の写真  
木の下にはたくさんのプレゼント

●名前 堀池 百  
 ●留学先 フィリピン大学  
 ●所属 経営情報学部 経営情報学科3年  
 ●留学期間 2012年9月～2013年4月

発展途上国フィリピンで開発経済学を学ぶとともにビジネスチャンスを見つけること、また、英語力の向上のためにフィリピン大学への留学を決めました。留学中は授業だけでなく寮での生活など様々なことから多くのことを学びました。

◆日本人にはない発想

始めの頃は授業の英語が聞き取れずに苦労したので、授業を録音して寮へ持ち帰り復習していました。“Japan Study”という漢字の授業に日本人ゲストとして招かれたとき、漢字を自分たちの体で表現するというグループワークがありました。物、鳥、安、飯、悪などの漢字が書かれた紙が並べられ、これは難しいと思いましたが、10分足らずで人間漢字を完成させてしまうのには驚きました。「鳥」なら鳴き真似をしたり、歌いながらBGMをつけたり、漢字の書き順を考慮して日本語で数を数えながら発表するグループごとの工夫も見られました。漢字の意味だけでなく、読みや書き順を理解していないとできないことです。フィリピンの学生の、日本人の自分にはない発想や、学んだこと全てを吸収しようとする姿勢に触れ、これまでの自分の授業への取り組み方などを考えさせられました。



寮の仲間たちと  
たくさんの出会いと別れがありました

◆寮生活で得たこと

留学中に過ごした寮には世界各国から留学生が集まっていました。寮では頻りに話し合いが行われ(例えば、タイ人が母国に関する話題を紹介しそれについてみんなで議論する)、参加しました。休日には近くの大型ショッピングセンターで買い物をしたり映画を観たり、観光地にも行きました。また、留学のテーマの一つでもあるフィリピン人の消費者行動を観察したりしました。様々な文化圏の人との触れ合いで、考え方も広がったと思います。

◆今後の目標

学校の授業で学んだ知識に加え、発展途上国フィリピンが抱える様々な問題を留学生活の実体験から学びました。留学を通して本当に自分の考え方が広がったので、今まで気づかなかったようなことにも目を向けて考えを深めたいし、ゼミで他の人と共有し、自分にしかない視点でディスカッションできたら面白いと思います。この貴重な機会を与えてくれた県大の先生方、家族、そしてフィリピンでお世話になったすべての人に感謝したいと思います。



日本人の私を見つけ日本語で  
話しかけてくれるフィリピンの子供たち





研究室は PC 等の機器が揃い、いつでも自由に研究ができる

## 経営情報学部 齊藤研究室

齊藤 和巳 教授

(知能情報学、発見科学、複雑ネットワークの科学)

■ 在籍学生数: 16名

■ <http://pre4306.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

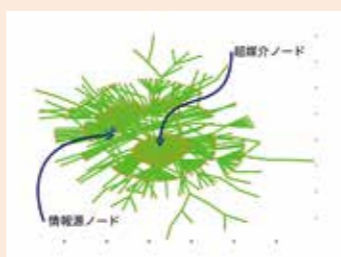
### ■ 数理モデルは社会のモデルをつくる

インターネットの普及や情報通信技術の高度化により、情報システムの利用が広く浸透し、私たちは日々様々な情報を入力し処理している。また、近年では twitter など代表されるソーシャルメディアの流行により、私たち自身が世界に向けて情報発信することが手軽にできるとともに、新たなコミュニケーション手段として重要な役割を果たすようになった。

齊藤研究室では、こうした情報化社会の中で増え続けるビッグデータと呼ばれる膨大な情報データや、複雑ネットワーク上の情報拡散やユーザー同士の相互関係などを、数学やプログラミングを用いて分析する研究を行っている。

「人間は影響され合う生き物です。ソーシャルメディア上の発言の拡散や、レビューサイトのクチコミ、株価の変動などの現象

を、情報数学を用いて分析することは、人間の集団心理の理解や社会影響の推定などの社会科学領域への応用にもつながります。言い換えれば、私たちの生きる社会の理想モデルをつくるための研究といえるかもしれません。」



<複雑ネットワークの可視化例>  
東日本大震災時に twitter 上であるツイートが RT (リツイート) されたときの情報伝播経路。数値を可視化することで構造や情報伝播のメカニズムを視覚的に理解できる。

### ■ 基礎知識や経験を確実に積み重ねる環境

「経営」「総合政策」「情報」の三つの分野を柱とする経営情報学部の中で、特に理系の要素が強い情報分野。数学や物理が好きなゼミ生が多いのかと思えば、ゼミに配属されてから勉強をはじめたという学生も少なくない。

齊藤研究室では、プログラミングや情報工学の基礎知識を深めながら、各々が研究テーマを決める。一方で、配属された3年次から、学会が開催する大会で研究発表する機会が与えられる。また、他大学や学部内の情報系ゼミとの合同合宿を通して交流と情報交換ができるなど、学生が研究活動を行う上で環境が整っている。大学院への進学率が高いのも特徴だ。こうしたこ

とについて齊藤教授は、「学生に情報や環境を提供するのは当然のことで、この研究室が特別ではない」と言う。「学生を見ると、地道にコツコツやる人は伸びると感じます。すぐに実用化できる研究ではないので、基本的なことを根気よく突き詰めていく力が必要です。一方で、研究には流行り廃りの面もあります。特に情報科学という分野の性質上、研究コミュニティや学会など、常に最新の情報にアンテナを張ることも重要です。どちらかといえば私自身が根気ももっと必要だと思うので、学生から学ぶことはありますね。」

### 学生の声

#### “縦のつながりが フランクな研究室です”

◎ 学部4年生 小林えりさん

ゼミ配属時、私は数学が得意なわけではありませんでした。先輩から教科書を借りて勉強したり、わからないことは先輩や先生に聞いています。齊藤先生は噛み砕いてわかりやすく教えてくれますし、この研究室は先輩や先生との繋がりがとてもフランクで居心地が良いです。私の研究課題は、「オブジェクト可視化と類似検索機能による頑健線形射影法の評価」というテーマで、化粧品クチコミサイトのユーザーレビューから、類似するアイテム(化粧品)を検出する分析手法を研究しています。また、アイテム間の類似関係を損なわずに可視化することでアイテム全体の構造を分析する手法も考案しているところです。今は6月の人工知能学会に向けて準備を進めています。将来は大学院に進学して、研究を続けたいです。



#### “学会に参加して得た経験や 人との出会いがモチベーションに”

◎ 修士課程2年 山岸祐己さん

現在は、学部生のときに行っていた研究の延長で、レビューサイトにおけるユーザー間の動的類似度分析について研究しています。また、メインの研究とは別に、動画サイトに投稿されたオリジナル楽曲の評価手法についても研究しています。もともとこうしたオリジナル楽曲を聴くのが好きで、研究を通して得た知識や経験を好きなことにダイレクトに生かしていると感じます。

この研究室に入り、研究会や学会等で出会った人たちからいただいたアドバイスや応援が、さらにモチベーションにつながっていますし、苦しい分析や検証、英語のスキルアップに対しても取り組んでいます。自分がやりたいことがあれば、目標達成に向けて必要なことは何でもやるし、技術も身につきます。受験生や後輩には、科目の得手不得手ではなく、自分の目標のためには何が必要か、そういう視点で進路を考えてほしいと思います。



## 産学官連携

本学が取り組む産学官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

### ■ 研究成果報告

#### 液体蒟蒻を応用した豆乳入りドーナツ 「けっこうかみごたえあるドーナツ」

短期大学部歯科衛生学科  
木林 美由紀 准教授

短期大学部歯科衛生学科の木林美由紀准教授と、静岡市清水区の豆腐店「白帆タンパク」が、『こんにやく入りの豆乳ドーナツ』を共同で開発しました。

厚生労働省は、健康のためひとくち30回以上噛むことを目標として「噛ミング30(カミングサンマル)」運動を推進しています。株式会社白帆タンパクは、こんにやくを配合したドーナツの製造開発を行い、木林准教授は、ひとくち30回以上噛んで食べられることを目指して、同社が試作したドーナツの噛み応えの評価を行いました。表面が固く、中はサクサクとした歯ごたえがある、食感の良い美味しいドーナツを作製する中で、こんにやくの混ぜ方や、配合量など多くの試行錯誤がありましたが、関係者の協力を得て商品化が行われ、平成25年5月から「けっこうかみごたえのあるドーナツ」として販売にいたりしました。

幼少期から良く噛んで食べる習慣を身に付けることにより、顎の発育促進や、唾液分泌によるむし歯予防や歯質強化、肥満防止等の効果が期待されています。

なお、「けっこうかみごたえのあるドーナツ」の開発は、静岡市産学交流センターの「地域課題に係る産学共同研究委託事業」の支援を受けて行われたものです。



製品化された咀嚼効果のあるドーナツ



販売される商品は、プレーン、ゴマ、静岡茶味の3種類



産学共同研究成果発表会で成果報告を行いました



こんにやく粉を豆乳で溶き液体化した液体蒟蒻



製品化されたドーナツを手にする木林准教授(左)と上野社長(右)

「けっこうかみごたえのあるドーナツ」の購入は巻末広告をご覧ください。また、静岡県立大学売店(学生ホール・2階)でも販売しています。



信頼される薬剤師を目指し  
日々勉強中です。



**お名前** 安藤 奈津子さん  
**卒業学部** 薬学部 薬学科 (2012年 3月1日卒業)  
**勤務先** 菊川市立総合病院 薬剤科

## Q1. どんなお仕事をされていますか？

病院の薬剤科では、調剤・注射・病棟業務があり、今は病棟業務を担当しています。病棟業務では、医師や看護師からの問い合わせ

せに対して先輩方にも指導してもらいながら対応しています。また、入院患者の持参薬の確認や薬の相互作用のチェック、臨床検査値やバイタルサインのモニタリングをしています。薬による副作用を目の当たりにすることも多く、薬剤師として薬の副作用予防や早期発見に努めることの重要性を感じながら日々業務を行っています。

## Q2. 大学生活で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは？

6年制の4年次から研究室に所属し、「うつ病における遺伝子多型と個別化医療」について研究をしていました。実際に臨床の現場で研究内容に関わる症例は多くはないですが、卒業研究を通してわからないことをどのように考え、結果に対してどう考察していくのかを学ぶことができ今の仕事でも役立っています。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは？

他学部の友人もでき、さまざまな話をすることで広い視野をもつことができました。また、病院・薬局実習は静岡県内で行うため地元で働くにあたってプラスになりました。地元で働く友人も多く研修会や勉強会で情報交換もでき勉強になります。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

薬剤師となり2年目のため、薬全般の幅広い知識をもった医療分野におけるジェネラリストを目指していきたいと考えています。また、特定の分野の専門性も高めていき、患者さんや医療スタッフから信頼される薬剤師になるために勉強中です。

## Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

学生時代は自由に使える時間も多いため、旅行に行ったり多くのことを経験することで得られるものは多いと思います。遊ぶ時は遊び、勉強する時は勉強しメリハリのある楽しい学生生活を送ってください。



患者さんの薬物治療についてミーティングを行う安藤さん

大学で、  
多くの志の高い仲間に出会えました。



**お名前** 高倉 惇さん  
**卒業学部** 薬学研究科 (2010年 3月1日卒業)  
**勤務先** 中外製薬株式会社

## Q1. どんなお仕事をされていますか？

シンガポールに昨年設立された研究所で、抗生薬の創製研究に携わっています。新しい医薬品のアイデアを提案したり、生物の細胞を用いた物質評価により、医薬品の開発候補となる材料を探しています。また、現地スタッ

フの方と、文化の違いを超えて協力しながら、サイエンスに打ち込める点が貴重な経験となっています。

## Q2. 大学生活で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは？

学部時代の講義で身につけた自然科学の基礎知識は、より専門的な内容を理解するために必要不可欠で、現在の業務に直結しています。また、大学院ではノックアウトマウス(遺伝子を欠損させたマウス)の解析をテーマにしながら、研究活動の進め方や、研究技術について学びました。企業での研究においても、基本的な考え方は共通しており、研究者としての第一歩を教えていただいた、と感じています。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことは？

志の高い、多くの仲間に出会えたことです。勉学や就職活動など、支え合いながら試練を乗り越えてきた仲間は、かけがえのない存在です。卒業後も連絡を取って、旅行や食事に出かけたり、情報交換をしています。同じ薬学というフィールドで活躍する友人と話すことで、仕事のモチベーション維持にもつながっています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

自分の携った医薬品を世に出し、多くの患者さんに届けることが目標です。まだまだ知識も経験も不足していますので、まずは多くの経験を積み、仕事の質を上げていきたいと思っています。効率の良い研究計画を立て、周りを巻き込んで、プロジェクトを進めていけるリーダーになりたいと思っています。

## Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

学生時代は、自由に使える時間が多いため、学業だけでなく旅行をしたり、趣味やアルバイトにも取り組んでいました。人脈を広げたり、多くの価値観に触れることができる、良い機会だと思います。自分はどんな人間になりたいか、ビジョンを持って、そのために今何ができるのかをよく考えて、有意義な生活を送って欲しいと思います。

# 教員人事、新規客員教授・准教授の紹介

## ◆就任 4月1日付け

木苗 直秀	学長	
奥 直人	副学長	
室谷 哲	副学長	
野口 博司	薬学部	学部長
合田 敏尚	食品栄養科学部	学部長
高柴 慎治	国際関係学部	学部長
松浦 博	経営情報学部	学部長
式守 晴子	看護学部	学部長
桑原 厚和	環境科学研究所	所長
豊岡 利正	大学院薬学研究院	研究院長
小林 裕和	大学院食品栄養環境科学研究院	研究院長
武田 修一	大学院国際関係学研究所	研究科長
金川 幸司	大学院経営情報イノベーション研究科	研究科長
古川 文子	大学院看護学研究科	研究科長
小林 裕和	大学院薬食生命科学総合学府	学府長
小林 みどり	附属図書館	館長
丹治 健一	学生部	部長
賀川 義之	薬学部	副学部長
大橋 典男	食品栄養科学部	副学部長
寺尾 康	国際関係学部	副学部長
齊藤 和巳	経営情報学部	副学部長
金澤 寛明	看護学部	副学部長
坂田 昌弘	環境科学研究所	副所長
渡邊 聡	学生部	副部長
津富 宏	学生部	副部長
熊谷 裕通	健康支援センター	センター長
池田 哲夫	情報センター	センター長
寺尾 康	言語コミュニケーション研究センター	センター長
津富 宏	キャリア支援センター	センター長
山田 浩	健康支援センター	副センター長
デハーン ヨナサン	言語コミュニケーション研究センター	副センター長
高畑 幸	キャリア支援センター	副センター長
今井 康之	学長補佐	(国際交流担当)
山田 静雄	学長補佐	(産学連携担当)
菅 敏幸	学長補佐	(広報担当)
西田 在賢	学長補佐	(社会教育担当)
岩崎 邦彦	学長補佐	(社会教育担当)
若林 敬二	学長補佐	(環境科学研究所将来構想担当)
吉村 紀子	学長補佐	(語学教育担当)
岩崎 邦彦	地域経営研究センター	センター長
西田 在賢	医療経営研究センター	センター長
齊藤 和巳	ICTイノベーション研究センター	センター長

## ◆新規客員教授・准教授の紹介

黒柳 正典	教授	県立広島大学生命環境学部名誉教授	H24.6.1 ~ H27.3.31
横野 正	教授	京都薬品工業(株) 取締役 創剤研究部長	H24.12.1 ~ H27.3.31
中山 勉	教授	日本獣医生命科学大学応用生命科学部教授	H25.4.1 ~ H28.3.31
今井 伸二郎	教授	㈱日清製粉グループ本社R&D品質保証本部研究推進部主査	H25.4.1 ~ H26.3.31
左 一八	教授	会津大学短期大学部教授	H25.4.1 ~ H27.3.31
堀田 欣也	准教授	ノッティンガム大学マレーシア校准教授	H25.5.1 ~ H26.4.30
青木 雅信	准教授	藤枝市立総合病院泌尿器科 科部長	H25.5.1 ~ H28.3.31

## ◆採用 4月1日付け

橋本 博	薬学部	教授
金 承榮	食品栄養科学部	助教
石井 由香	国際関係学部	教授
笠原 民子	経営情報学部	講師
西山 絢太	経営情報学部	助教
本江 朝美	看護学部	教授
谷口 通英	看護学部	准教授
田中 範佳	看護学部	准教授
杉山 洋介	看護学部	講師
保田 倫子	環境科学研究所	助教
坂口 真人	環境科学研究所	特任教授

## 5月1日付け

中村 順行	食品栄養環境科学研究所	特任教授
-------	-------------	------

## ◆昇任 4月1日付け

前田 利男	薬学部	教授
濱島 義隆	薬学部	教授
浅井 知浩	薬学部	准教授
高橋 忠伸	薬学部	講師
小林 公子	食品栄養科学部	教授
剣持 久木	国際関係学部	教授
湖中 真哉	国際関係学部	教授
伊藤 一頼	国際関係学部	准教授
太田 尚子	看護学部	教授

## ◆退職 3月15日付け

赤井 周司	薬学部	教授
-------	-----	----

## 3月18日付け

大澤 隆幸	国際関係学部	教授
-------	--------	----

## 3月27日付け

稲垣 久子	国際関係学部	教授
稲田 晴年	国際関係学部	教授

## 3月31日付け

左 一八	薬学部	准教授
石内 勘一郎	薬学部	特任助教
杉山 晋平	薬学部	特任助教
中山 勉	食品栄養科学部	教授
米谷 民雄	食品栄養科学部	特任教授
島田 孝夫	国際関係学部	特任教授
鈴木 直義	経営情報学部	教授
高 瑞紅	経営情報学部	講師
松岡 恵	看護学部	教授
奥原 秀盛	看護学部	准教授
白尾 久美子	看護学部	准教授
村上 優子	看護学部	助教
原澤 純子	看護学部	助教
齊本 美津子	看護学部	助教
岩堀 恵祐	環境科学研究所	教授
国包 章一	環境科学研究所	教授
坂口 真人	環境科学研究所	教授

## ◆名誉教授 (称号付与日:平成24年度4月1日付)

氏名	前所属・職名
藤井 敏	薬学部 教授
鈴木 裕一	食品栄養科学部 教授
横越 英彦	食品栄養科学部 教授
酒井 坦	大学院生活健康科学研究科 教授
小谷野 俊夫	国際関係学部 教授
中山 慶子	国際関係学部 教授(国際関係学部長)

\*名誉教授については平成24年度の発行において未掲載の方を掲載しています。



## 受賞一覧

\*各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

### 教員



#### ◆杉山彦三郎顕彰会 平成 25 年度杉山彦三郎賞 (茶品種改良・普及功績賞)

食品栄養環境科学研究院 中村 順行 特任教授

5月2日、静岡市内で行われた、静岡県茶業会議所による「杉山彦三郎翁顕彰会記念式」において、食品栄養環境科学研究院の中村順行特任教授が茶品種改良・普及功績賞を受賞しました。

杉山彦三郎は1908年(明治41年)、現在の静岡の茶の中心品種である「やぶきた」を発見するなど積極的に茶の選抜、育成を行い、当時輸出されていた緑茶の品質を向上させるなど多くの業績を残しています。これを称え、1962年(昭和37年)に杉山彦三郎顕彰会が創設され、毎年の新茶時期に杉山翁の慰霊とあわせた、茶業功労者の表彰が行われています。

中村教授の受賞理由は、「山の息吹」「つゆひかり」「香駿」「ゆめするが」「おくひかり」「さみみずか」を育成するとともに、バイオテックを利用した大量増殖法やポット育苗技術などの増殖体系を確立し、茶業推進に大きな功績を残したことによるものです。

### 学生

\*学生の学年は受賞当時のものです。



#### ◆第 11 回 SOHO しずおかビジネスプランコンテスト 学生部門 最優秀賞

経営情報学部 3年生 先山 晃平さん、前迫 紗由美さん、仲本 友香さん、廣田 幸大さん

2月13日に開催された「第11回SOHOしずおかビジネスプランコンテスト最終審査会」において、経営情報学部の学生チームが考案した、静岡伝統工芸の漆塗りや蒔絵の装飾を施したスマートフォンケース「TradiPhone(トラディフォン)」のプランが学生部門最優秀賞を受賞しました。



#### ◆情報処理学会全国大会 奨励賞

大学院経営情報イノベーション研究科 修士課程1年 山岸 祐己さん

3月6日から8日にかけて東北大学で開催された第75回情報処理学会全国大会において、経営情報イノベーション研究科修士課程1年の山岸 祐己さんが、学生奨励賞を受賞しました。この賞は、学生セッションで発表した学生の中から優秀な発表に対して贈られるものです。

論文名:「レビューサイトにおけるユーザ間の動的類似度分析」



#### ◆第 28 回茶学術研究会講演会 奨励賞

薬学部薬学科 5年生 伊東 未来さん

3月15日に開催された第28回茶学術研究会講演会において、薬学部医薬品情報解析学分野6年生の伊東未来さんが奨励賞を受賞しました。この賞は、優秀な発表を行った学生または若い研究者に対し贈られるものです。演題「緑茶うがいによるインフルエンザ予防効果の検証 - 高校生を対象とした多施設共同ランダム化比較試験」

#### ◆第 28 回茶学術研究会講演会 ポスター賞

学部・大学院生ら 3名

3月15日に静岡で開催された第28回茶学術研究会講演会において、大学院の学生3名がポスター賞を受賞しました。

大学院生活健康科学研究科 食品栄養科学専攻 博士前期課程2年 西澤 正人さん

演題「茶カテキンと胆汁酸ミセルとの相互作用解析」

大学院薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻 博士前期課程1年 林 美香さん

演題「紅茶テアフラビン類の蛋白質に対する反応の解析」

薬学部薬学科 5年生 高橋 由さん

演題「緑茶カテキンによる学習能低下抑制作用のメカニズムに関する検討」

## 受賞一覧

\*各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

### 学生

#### ◆日本薬学会第 133 年会 優秀発表者賞

薬学部・大学院生ら 10名

3月27日から30日に横浜で開催された『日本薬学会第133年会』において、薬学部と、大学院薬食生命科学総合学府、薬学研究科所属の学生10名が優秀発表者賞を受賞しました。

受賞者と演題:(発表順)

大学院薬食生命科学総合学府 博士後期課程1年 坪井 康一郎さん

「ケモカイン提示とリンパ球ホーミングにおける高内皮細静脈へノバラン硫酸の機能解析」

大学院薬学研究科 博士後期課程2年 福島 圭穂さん

顕著な膜融合活性を示すヒトパラインフルエンザ1型ウイルス変異株の単離とF糖タンパク質の機能解析」

大学院薬学研究科 博士前期課程2年 山田 尚樹さん

「転動および転動流動コーティング法が徐放性コーティング微粒子からの薬物溶出に及ぼす影響」

薬学部薬学科 4年生 松永 沙織さん

「トラナラストの溶解性及び経口吸収性改善を指向した自己乳化型製剤の開発」

大学院薬学研究科 博士前期課程2年 井出 和希さん

「アミロイドβ投与による視床下部-下垂体-副腎皮質系の機能亢進と周辺症状様行動」

薬学部薬学科 5年生 上戸 由里佳さん

「FK506封入PEG修飾リポソームによる脳虚血/再灌流障害治療」

大学院薬学研究科 博士前期課程2年 木村 武志さん

「o,o,p-オリゴフェニレン類の合成研究」

大学院薬学研究科 博士後期課程3年 池内 和忠さん

「(-)-Sphingofungin E の全合成」

大学院薬食生命科学総合学府 博士前期課程1年 加藤 尚視さん

「ROSアクセシ多施設バリデーション:物性からの光毒性リスク予測を目指して」

大学院薬学研究科 博士後期課程3年 吉田 篤史さん

「エクテナサイジン743の合成研究」

#### ◆静岡ライフサイエンスシンポジウム ポスター賞

食品栄養科学部・大学院生ら 2名

3月16日に静岡大学で開催された第14回静岡ライフサイエンスシンポジウムにおいて、薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻 博士前期課程1年の乾 沙王里さんと、食品栄養科学部4年生の加藤 大地さんがポスター賞を受賞し、乾さんは最優秀賞を受賞しました。



乾 沙王里さん (食品分析化学研究室)

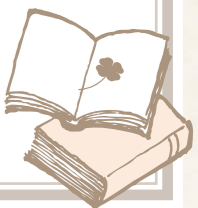
演題「ソロモン諸島産プロポリス由来新規プレニル化合物の単離とその抗菌活性」



加藤 大地さん (食品分析化学研究室)

演題「茶ポリフェノールの渋味評価-良薬口に渋し-」





新館長から...  
新装後の図書館の資料と  
スペースを十分に活用ください

館長 小林みどり(経営情報学部教授)

私にとって図書館は、本を借りたり文献を検索したり、手に入りにくい資料を全国の大学図書館から入手したりと、研究上なくてはならない存在です。最近では、百年以上も前のイギリスのある新聞記事を図書館スタッフが探し出してきて入手することができました。

その図書館が、このほど改修され、従来の図書館のイメージを一新する空間になりました。個人学習室(キャレル等)、グループ学習室(LCフロア等)、リフレッシュコーナー(ブラウジングコーナー等)など、いろいろなおスペースが用意されています。学生に感想を聞いてみたいところ、「快



「学生図書ツアー」・「新生活にチャレンジ」資料展示コーナー

本学教員からの寄贈著書

■本庶 佑理事長  
『ゲノムが語る生命像』  
講談社(ブルーバックス)(480/B39/1800)

■澤田 敬人先生(国際関係学部)  
『グローバル化:オーストラリア教育市場化の研究』  
『多文化社会を形成する実践者たち:メディア・政治・地域』  
オセアニア出版社(372.71/Sa93)(302.71/Sa93)

■岩崎 邦彦先生(経営情報学部)  
『小が大を超えるマーケティングの法則(韓国語版)』  
日本経済新聞社(673.7/196)

■小林 みどり先生(経営情報学部)  
『あたらしいグラフ理論入門』『文科系の応用数学入門』増補版  
牧野書店(415.7/Ko12)(410.4/Ko12)

■小浜 裕久先生(国際関係学部)  
『ODAの経済学』第3版』  
日本評論社(333.8/Ko27)

■津富 宏先生(国際関係学部)  
『熟議民主主義ハンドブック』  
ジョン・ギヤスティル、ピーター・レヴィーン編  
津富 宏、井上 弘貴、木村 正人監訳  
現代人文社(312.53/G25)

■米山 優子先生(国際関係学部)  
『ヨーロッパの地域言語<スコット語>の  
辞書編纂:『古スコット語辞典』の歴史と思想』  
ひつじ書房(893.2/Y84)

■本田 悦朗先生(国際関係学部教授)  
『アベノミクスの真実』  
幻冬舎(332.107/H84)



県民の日事業

夏休み県大ツアー 2013を  
開催します



1876年8月21日、当時の静岡県と浜松県が合併して現在の静岡県ができました。静岡県では、8月21日を「県民の日」とし、この日を中心にさまざまなイベントや教室を開催しています。

本学ではこの「県民の日」に、研究室や図書館などの施設見学、体験学習など、大学の醍醐味を味わえるイベント「夏休み県大ツアー」を開催します。広く一般の方を対象としておりますので、奮ってご参加ください。

- 開催日時 8月21日(水) 13:00~16:30
- 参加対象 小学生以上の県民の方(小学生の方は保護者同伴)

\*事前申込制となります。(7月1日より応募受付開始予定)  
お申し込み方法やイベントの詳細については、随時大学公式サイトでお知らせします。  
<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

お問合せ先 教育研究推進部広報室  
TEL 054-264-5130(平日9:00~17:00)

はばたきへのご感想をお寄せください

「広報誌はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。また、ご意見・ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

適!、「自宅より図書館の方が集中できる」「夜十時まで開いているので助かる」など評判は上々です。さらに本学の図書館には親切な図書館スタッフが揃っていますので、調べものがあるときにはぜひ尋ねてみてほしいと思います。

シリーズ  
私の1冊の本

国際関係学部講師  
奈倉 京子

紹介図書  
『タテ社会の人間関係:単一社会の理論』

著者名:中根 千枝  
●出版社:講談社  
●ISBN:4-06-115505-9  
●図書館所蔵:1階文庫・新書コーナー 他  
●請求記号:361.3/N38

私がこの本に出会ったのは、高校生の時でした。現代国語の期末試験の副読本として指定され読み始めましたが、当時は提示された鍵となる抽象度の高い概念を現実と突き合わせて考えることができず、消化不良でページを閉じた記憶しかありませんでした。ところが大学で文化人類学のゼミに入ると、人類学

籍として指導教員に勧められ、再びページを開くこととなりました。そして現在、担当している「中国社会学論」の授業で、中国の「差序格局」的人間関係・社会構造との比較の観点から、本書の内容を紹介し、日中間の人間関係の築き方や組織(大学のサークル、部活、企業等)におけるリーダーシップの相違について、毎年、受講生とディスカッションをしています。とても縁のある本の冊です。

本書は社会人類学者の中根千枝が、インド、中国、イギリス、アメリカの社会と比較しながら、「単一社会の理論」により日本の社会構造の本質を捉えようとしています。まず、「資格」(生まれながらに個人に備わっている氏・素性、生後個人が獲得した学歴・地位・職業等)と「場」(一定の地域、所属機関等)の概念を提示し、日本人は「場」を強調すると述べています。そのため「家」(家族・親族の意味に加え、集団の枠を比喩的に表現している)集団内における人間関係が優先され、これが雇用関係にも影響していると分析しています。従って、「日本の企業の社会集団としての特色は、それ自体が『家族的』であること、従業員の私生活に及ぶという「点にある」と指摘しています。このような家族的「一体感や情的結びつき」によって養成される「枠」の強さにより、「ウチ」「ヨソ」の意識が強くなり、日本社会の中では複数の場へ所属することが不可能となると述べています。

次に、「タテ」「ヨコ」の関係について考察しています。日本は「タテ」組織であり、これは「場」による集団の孤立性が導いた特性であると解釈されています。従って本書のタイトルにもなっている「タテ社会」は、上述した「場」のメカニズムを基礎に成り立っている点を理解することが重

要です。この原理に基づき、更に筆者は「タテ社会」における「ワン・セット主義」や派閥争いを生み出すメカニズム、リーダーと集団の関係についても論を進めています。

本書は一九六七年に出版された本ですが、五十年近く経過した現代の日本社会にも通じる普遍性のある日本社会学論、日本人論の内容だと言えます。しかし方で、グローバル化に伴う世界経済(経営)の連携が促進される中で、「ワン・セット主義」のみでは生産が成り立たない状況もあるでしょうし、人が複数の場に所属しにくい「単一社会」では、人と人とのつながりも単調化し、イノベーションを生み出す可能性も低くなります。このように本書を「仮敵」として現在進行形で起きている変化と突き合わせてみると、日本社会の変化や問題点が見えてきます。

また、他の国の社会構造との比較研究にとっても本書は有効です。私が研究対象としている中国における人間関係は、人が環境や状況に応じて、自己を中心に「差序格局」的構築を特徴としており、「枠」の境界線が曖昧なため、個人が複数の集団と関係を持つことができます。このような関係は自由かつ柔軟で伸縮可能であるという長所がある一方、不安定で壊れやすいという短所もあります。このように本書は、学生の皆さんが興味のある国、携わってきた国、勉強してきた国、これから就職する企業と関係の深い国等の社会に内在された基本原理を見えるための有効なモノサシ、指針を与えてくれます。



ひと口で30回  
モグモグ

モグモグ♪

けっこウ  
かみこたえある  
ドーナツ

カミカミ♪

県大  
木林先生と  
共同開発!

静岡県立大学 短期大学部 歯科衛生学科  
木林 美由紀 准教授

好評発売中

**販売場所**

静岡県立大学 売店、静岡県立大学短期大学部 売店、  
しずてつストア田町店とうふや上野、しずてつストア安東店とうふや上野、  
しずてつストア流通通り店とうふや上野、しずてつストア富士吉原店とうふや上野、  
しずてつストア沼津駅前店とうふや上野、ピアゴ清水高橋店とうふや上野、  
清水河岸の市とうふや上野、東名新東名サービスエリア各売店、キオスク各売店

**よくかんで  
おいしく健康づくり!**

よく噛むと…

- 食事を美味しく味わえます!
- 生活リズムや運動能力とも関連が深い!!

静岡茶味  
ゴマ味  
プレーン味



販売元/株式会社 白帆タンバク  
静岡市清水区北脇333 ☎ 0120-451-792  
HP www.shiraho102.com  
メール/info@shiraho102.com

< 静岡県立大学学生様 >

## 卒業袴レンタル

～学内展示会23年の実績と信頼のお店～

- ・大学内での出張展示予約会開催!
- ・式当日は学校で着付け・ヘア・写真撮影可能!

皆様にご愛顧を頂いて23年  
感謝を込めて今年も頑張ります!

### Check!

- ・式当日は学校(予定)にて着付け・ヘア・写真撮影が出来ます!
- ・県大に出張! 学内展示会。  
「詳しくは8月末当社HPに掲載! 9月上旬から売店前にてパンフレット配布します!」
- ・専門店ならではの品数! 価格も学生価格で良心的!
- ・学内展示会に来られない方は、当社へご来店下さい。

### < 店内展示会 >

H25年9月14日～(随時)  
9時30分～16時  
※水曜定休・正月休有り

貸衣裳の老舗

**(株) 京都むらまつ**

静岡市葵区馬場町25-2  
フリーダイヤル: 0120-144081  
電話番号: 054-252-5293  
営業: 9時30分～17時(水曜定休)  
HP検索: 「京都むらまつ」



短期大学部をご卒業予定の方の詳細、  
成人式振袖レンタルの詳細は当社HPをご覧ください!

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。